

折々の便り

ふるさと愛南町を遠く離れて生活をされている方に「ふるさとへの想い」をご投稿いただき、新たな交流のきっかけにつながればと

「折々の便り」というコーナーを設けています。

今回は、濱本秀雄広報編集委員の紹介で、教育委員をされている渡邊千寿さんの娘さんで、大阪で漫画家として活動をしている渡邊芽さんからご投稿いただきましたのでご紹介します。

漫画、愛南を愛する思い

愛媛に帰って来るたびに思うことは、やはり自然は良いなあということです。

大阪や他都市に比べると、空や海がまったく違うので帰郷するたびに感動しています。ずっと、その場にいるとそれが普通になってしまい気付かないものですが、雲の大きさや夏の涼しい風など、それがごく普通に存在していることのありがたさに気付かされます。

幼少から、ずっとこの地で過ごしてきた学生の方々は、一度は外に出て、そして戻ってきて、愛南の自然の豊かさに感動を覚えてほしいと思います。

大阪に移り住んだ今でも、夏と冬には実家に戻ってまったりと過ごしています。こちらに戻って来ると、この広報「あいなん」を読ませてもらうています。漫画甲子園で、南宇和高校美術部の皆さんが頑張っている様子を拝見して、卒業生としても嬉しかったです。

私は、今は大阪で漫画を描いています。まだまだ新人の「ヨッコ」ですが、やはり「好きなもの、好きなこと」をして過ごす毎日充実しているし、日々を生きる糧にもなります。

この職業(?)をめざして良かったことは、何をしても損が無いということだと思います。それは、どんな苦痛なバイトをしても、嫌な人に出会っても、落ち込む出来事があっても、失敗しても、それが全て自分の経験になり、ネタを作る材料になっていくからです。

「経験」は、他者から譲り受ける事の出来ない自分だけのものです。良い事も、悪い事も、体験したこと全てが財産になります。

もし、町内で将来芸術・アーティスト方面の職をめざしている人がいれば、今後は、是非、色々な経験を積んでほしいと思いますし、夢に向かっての第一歩を踏み出してほしいと思います。

自分が興味のあること以外のものにも、どんどん手を出していつてくたさい。結局、役に立たない経験であっても、損する事はきつくないはずですよ。

(投稿文 漫画家 渡邊芽さん)



渡邊さんが作成したイラストです。